臺　利夫先生のご退職に寄せて

人間科学科学科長　　丹 治 哲 雄

臺利夫先生が前任校の筑波大学から文教大学に移られて７年が過ぎようとしている．７年前の３月末に，総務課との打ち合わせのために来校される先生を，現在はもう取り壊されてなくなってしまった時計台下の小会議室前で，私は少し緊張しながらお待ちしていた．先生は，臨床心理学，とりわけ集団心理療法では大変著名な先生であり，もちろん私もご高名は存じ上げていたが，心理学では違う領域の専攻のため，それまで直接お話しする機会にはめぐまれていなかったのである．時計台の下で初めて直接ごあいさつを申し上げ，６号館や大学院の建物をご案内し，その後，私と同室の小さな２人部屋の研究室に入っていただいてから，もう７年もたってしまったのかと時の流れの速さにある種の感慨を抱かざるをえない．

先生は文教大学での７年間，学部では「心理学」「人格心理学」「心理学特講」「心理学特殊研究」「卒業論文」などの科目を，また，大学院では「研究指導」「臨床心理学演習」「臨床心理学研究演習」「臨床心理学特論」「心理療法特論」「集団療法」などの数多くの科目を担当された．先生はこうした講義を通じて，また，そのお人柄から多くの学生・院生たちから慕われてきた．学部の「人格心理学」は毎年100人を越す受講生のある人気授業であった．また，こうした講義のかたわら自主的研究会「グループ・アプローチ研究会」を組織され継続的に多くの学生・院生たちの指導に熱心にあたられてきた．さらに，大学院設置準備委員，大学院入試委員をはじめ，学部の紀要委員長，保健センター主任，保健センター運営委員などのお仕事をこなされてきた．こうしてみると，文教大学は，先生を随分「こき使って」しまったなあという印象を持たざるを得ない．それでも，先生は，大変お元気で文教大学の７年間を過ごされてきた．私の記憶では，この７年間，お体の不調を理由に授業を休講されたことは一度もなかったのではないか．先生は「人格心理学」を６号館三階の大きな教室で講義される．講義が始まると私のいる二階の研究室にまで，先生のお元気なお声が聞こえてくる．古希をおむかえになった先生とは思えないほどお元気なお声である．先生は，最近，ＭＡＣのコンピュータを購入され，独学でその操作をマスターされ，データ処理などに使われている．その旺盛なチャレンジ精神が先生の若さの秘訣なのかなあと思ったりする．

今年の６月に，筑波大学・文教大学の先生の教え子たちが先生やご家族をお招きして「臺先生の古希をお祝いする会」を開催した．東京湾をのんびりと一周しながらの船上パーティーであった．先生はたくさんの教え子たちに囲まれて終始ニコニコと船上での楽しい時間を過ごされていた．パーティー最後のご挨拶の中で，先生がおっしゃった「大学を退職して自由に時間がとれるようになったら，もう一度心理学を基礎から勉強し直してみたい」とのお言葉に私は感動をおぼえた．常に新しいテーマに関心をもち続けられ，いつも前向きな姿勢で熱心に研究に取り組まれる先生の姿勢は，我々に大変大きな刺激を与え続けてくださったと思っている．

先生はこの３月で専任から退かれるが，来年度からも引き続き学部や大学院での学生指導をお引受けくださっており，大変心強く感じている．私どもとしては先生の大きな元気のよいお声や笑い声を６号館や12号館でいつまでも聞いていたいのである．

７年の間，人間科学部と大学院に寄せていただいた先生のご厚情に深謝し，我々に対する今後のさらなるご指導ご鞭撻をお願いするとともに，先生のご健勝を心から祈念したい．